



まちの達人

TATSUJIN

コカリナアンサンブル ドルフィン
代表 広 浜 洋 子

コカリナは、ハンガリー生まれの木製楽器で、「木でできたオカリナ」から名付けられました。

通常は、桜や杉、カエデ、クルミなどで作られますが、地元蒲郡ミカンの木でできないかと思ひ、お願いして作っていただきました。吹いてみると、「明るくて軽い感じの音色で、高音がよく伸びる」と思いました。

農家の方が大切に育てたミカンの木で、新しい木に植え替えるために伐採した老木を再利用したものです。

『コカリナアンサンブル ドルフィン』は、2年ほど前から活動を開始して、現在メンバーは8人です。練習は、フレンドピア蒲郡で行っています。合奏していると、演奏者同士の気持ち

ちがびたつと合う瞬間がとても楽しいです。

楽器への愛情を注ぎ込み、吹いても聴いても、心安らぐ音色が魅力です。木の香りを感じながら吹くのは、自然との一体感もあります。

海と空の美しい音楽の街 蒲郡。特産品のミカンの木で作ったコカリナで吹く曲は、「ミカンの花咲く丘」がびったりです。

地元に着愛着を持ち、蒲郡という街を知ってもらいたいと思います。

ほっと心 休ませてごらん
ほっと心 遊ばせてごらん
ほっと心 愛されているよ
大丈夫だよ

山は見守っている
緑抱きしめて
空は広がっている

そんな気持ちでコカリナを吹き続けていけたらいいなと思います。



図書館 ☎ 69+3706



今年国民読書年。キャッチフレーズは「じゃあ、読もう。」ということで、今回は、金原市長に、本にまつわるお話をうかがいました。

— 今までの印象に残っている本は？

子どものころはね、本をあまり読まなかった(笑)。高校の卒業時分に先生が、これからは時間があるから、ともかく本を読めっていう言葉を贈ってくれて、それじゃあ読むぞ、ということと本を濫読。なんでもかん

でも読みました。海外の古典とかも読みましたが、結局、日本の文学に戻りましたね。

— 好きな作家は？
いろいろな本、文庫とか、今でもうちにありますけど、昔読んだ本をまた読むっていうのも楽しいですよ。その時と、こんな何十年も経ってからのとでは、感じ方が違うしね。

椎名誠に、池波正太郎に、藤沢周平に、浅田次郎も好きだね。あとは、料理の本をよく読みます。だから5冊借りる内で、2〜3冊はそういう食べ物に関する随筆。平松洋子とか小泉武夫とか、いろいろ、読みますね。

— 市長さんのベストワンは？
それは『福翁自伝』と『学問のすゝめ』ですよ。それは絶対学生さんに読んでもらいたい。福沢諭吉の先見性。だから一万円札になつてんだもん。それだけ評価があるってことだよ。



「学問のすゝめ」